

## 4.1.6 箱根稜線周辺の草地・低木林

## (1) 植物

箱根稜線付近では、草地や低木林が見られます。ここでは 86 科 308 種の植物が確認されました。最も標高が高く風が強くあたる箱根外輪山の稜線周辺には、ハコネダケが密生し、イヌツゲなどの低木がまばらに生育するササ草地が見られます。草地が切り開かれた場所などには、ススキ、トダシバ、マルバダケブキ、ノコンギク、シシウド、マツムシソウ、ハコネアザミ、シモツケソウ、イヌゴマ、サワヒヨドリ、オオバギボウシなど草原性の植物が生育しています。本来は森林であった場所が、伐採などの影響を受けた後、出来たものと考えられています。風の影響を強く受けるため、一度伐採されると樹木は成長が難しく、ハコネダケの群落が継続するケースが多いようです。ササ草地よりやや下がったゴルフ場や箱根高原別荘地周辺には、アセビ、イヌツゲ、ウバメガシなどの常緑広葉樹と、リョウブ、マメザクラ、ニシキウツギ、マユミ、コアジサイ、アブラチャン、クロモジなどの落葉広葉樹の低木林が見られます。ここも風の影響を受けるため、樹高は 6m 程度までとあまり高くなりません。林床には、ミヤマシキミ、イトスゲ、ツルリンドウ、モミジイチゴ、ナガバノスミレサイシンなどが生育しています。



春 2002/4/3



夏 2002/7/9



秋 2002/10/10



冬 2003/1/9

(芦ノ湖高原別荘地)

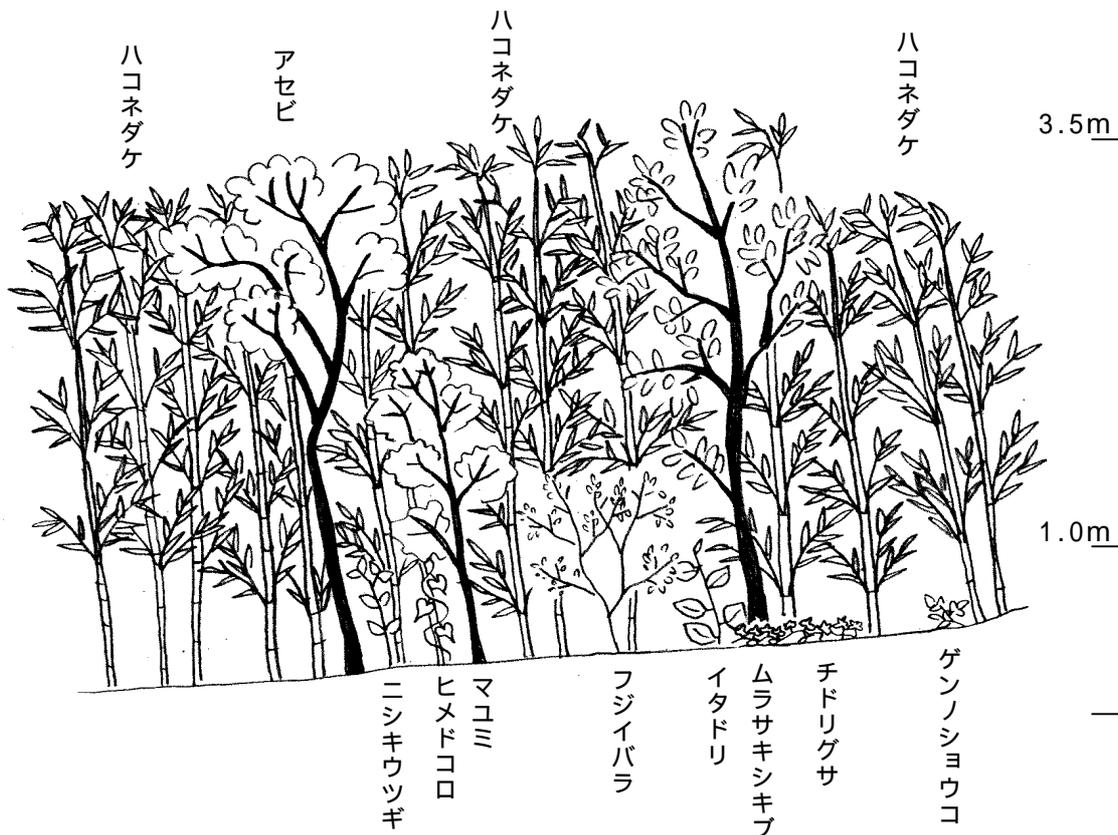
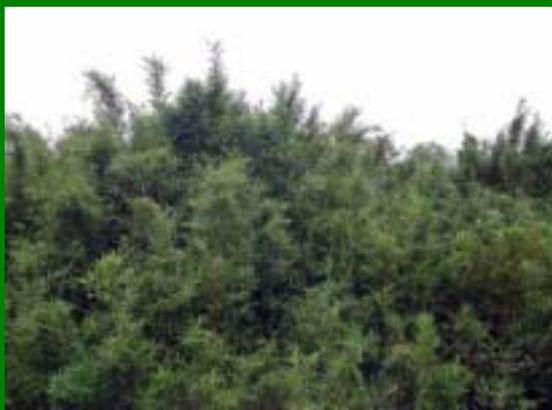


図 4-1-7 ハコネダケ群落(芦ノ湖スカイライン)の模式断面図

### ハコネダケ(イネ科)



温帯、暖帯の日の当たる火山噴出物の土地に群生する高さ 2~3m 程のタケ科植物です。特に箱根山周辺に多く見られることから、「ハコネダケ」と名付けられました。市内では、箱根稜線の周辺に密生しています。

【撮影：2002/8/13 箱根稜線】

### ジロボウエンゴサク(ケシ科)



草原、林縁、路傍などに生育する高さ 5~20cm の小さい多年草<sup>(20)</sup>です。4~5月に赤紫色~青紫色の花をまばらに咲かせます。エンゴサク(延胡索)とは、漢方の呼び名で、地下茎<sup>(23)</sup>を鎮痛、浄血剤としました。伊勢地方では本種を次郎坊(ジロボウ)、スミレのことを太郎坊と呼んでいたそうです。市内では、箱根稜線の歩道沿いで見ることができます。

【撮影：2002/4/18 箱根稜線】

### シモツケ(バラ科)



山地の日当たりの良い林縁や草原、湿地などに生育する高さ 50～150cm の落葉低木です。6～8月に淡紅色から濃紅色の小さい花が集まって密につきます。下野(しもつけ：現在の栃木県)で最初に発見されたので、この名前になったそうです。市内では、稜線の歩道沿いで見ることができます。

【撮影：2002/7/9 箱根稜線】

### マルバダケブキ(キク科)



深山のやや湿り気のある草地や林縁に生える高さ 1m 程の大型の草本植物<sup>(14)</sup>です。7～8月頃、直径 8cm 程の黄色い大きな花を咲かせます。葉が丸く、山地に生えるフキに似た植物という意味でこの名が付けられました。市内では、稜線の歩道沿いで見ることができます。

【撮影：2002/8/13 箱根稜線】

### マツムシソウ(マツムシソウ科)



山地の日が当たる乾いた草原に生育する高さ 80cm 程の草本植物<sup>(14)</sup>です。8～10月頃になると、茎の上方に長い枝を付け、その先に径 3cm ほどの淡紫色の花を咲かせます。市内では稜線の歩道沿いやススキの草地などで見ることができます。

【撮影：2002/9/29 箱根稜線】

### リンドウ(リンドウ科)



ススキなどの日の当たる草地や林内に生育する高さ 50cm 程の草本植物<sup>(14)</sup>です。9～11月頃、濃紫色の花が茎の上部にかたまってつき、日を受けて咲く様子はとても可憐です。根を乾燥させたものは、漢方で「竜胆」と呼ばれ、薬として用いられているそうです。市内では稜線の歩道沿いや林縁などで見ることができます。

【撮影：2002/11/6 箱根稜線】

ウメバチソウ(ユキノシタ科)



草丈の低い草原から貧栄養の湿地などに生育する高さ 30cm 程の草本植物(14)です。5枚の花びらを梅鉢の紋に見立て、「ウメバチソウ」と名付けられました。8~10月頃になると、白いウメの花に似た花を咲かせます。市内では、稜線の歩道沿いやススキなどの草地で見ることができます。

【撮影：2002/11/6 箱根稜線】

ホタルブクロ(キキョウ科)



山野や丘陵の林縁などに生育する高さ 40~80cm 程の多年草(20)です。子供が花の中に蛍を入れて遊んだので、この名がついたといわれています。6~7月に、白地に紅紫の斑点がにじむものや紅紫色のつり鐘ような形の花をたくさんつけます。市内では、比較のみどりが残されている林縁などで見ることができます。

【撮影：2002/7/9 箱根稜線】

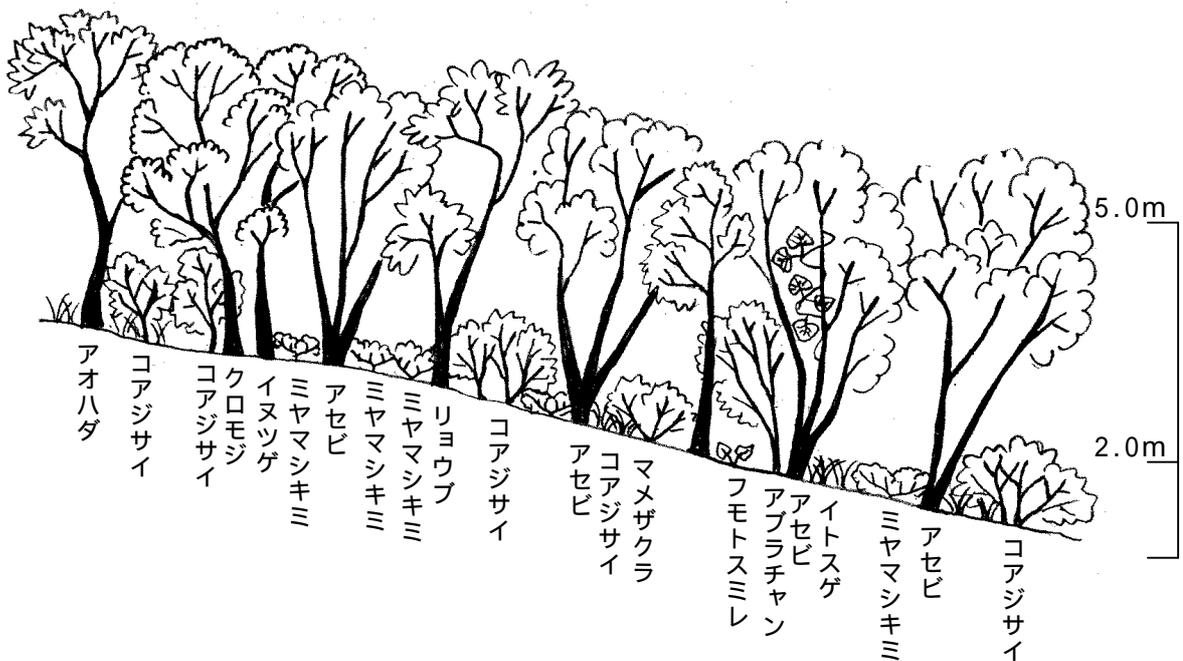


図 4-1-8 アセビ群落(芦ノ湖高原別荘地)の模式断面図

### アセビ(ツツジ科)



山地の日当たりの良い場所に生える、高さ2~4m程の常緑低木です。開いたばかりの新葉は赤味を帯びて美しく、2月下旬~5月頃には可憐な白い花を咲かせ、庭木、盆栽などに使用されています。市内では、稜線付近でたくさん見ることができます。

【撮影：2002/4/18 芦ノ湖高原別荘地】

### リョウブ(リョウブ科)



山地の日の当たる斜面や尾根筋に生育する高さ5~10m程の落葉小高木です。赤褐色のなめらかな樹皮は薄くはがれて特異的な美しい紋様をなすので、庭木としてよく用いられています。6~8月頃、枝先に白い小さな花を穂状につけます。市内では、山地上部でたくさん見ることができます。

【撮影：2002/11/6 芦ノ湖高原別荘地】

### サラサドウダン(ツツジ科)



山地の尾根近くの乾いた樹林内に生育する高さ4~5m程の落葉低木です。5~6月、淡紅色に紅色の縦縞が入ったつりがね状の花を下向きに咲かせます。サラサとは、この縦縞模様(更紗模様)のことだそうです。市内では、稜線近くの林縁や林内の所々で見ることができます。

【撮影：2002/5/14 芦ノ湖高原別荘地】

### シコクスミレ(スミレ科)



山地の落葉樹林などに生育する5cm程の多年草<sup>(20)</sup>です。4~5月頃に花を咲かせる白いスミレで、葉はかわいいハート型をしています。茎を伸ばしてふえる性質が強いため、林床一面、マット状に広がります。市内では、箱根稜線近くの落葉樹林下などで見ることができます。

【撮影：2002/4/18 芦ノ湖高原別荘地】

## (2)動物

箱根稜線周辺の草地・低木林では、哺乳類 5 科 8 種、鳥類 20 科 37 種、両生類 1 科 1 種、は虫類 1 科 1 種、昆虫類 73 科 252 種が確認されました。

### 哺乳類

哺乳類では、ヒミズ・アカネズミ・タヌキ・ニホンイノシシなど高標高の落葉広葉樹林とほぼ同様の哺乳類が確認されました。箱根稜線周辺にはササ草地が広がっていますが、森林性のヒメネズミも棲んでいます。また、稜線の遊歩道やその周辺の林内を歩くと、至る所にノウサギの糞が見られることがこの地域の特徴です。一面に広がるササの草地が昼間の格好の潜み場所に、日当たりの良い林縁や草地が良い餌場になっているようです。

### 鳥類

芦ノ湖スカイライン周辺のササ草地、牧草地、低木林を合わせると 20 科 37 種が確認されました。これらの環境全体に見られる種類はキジ・ウグイス・ホオジロ・ハシブトガラスなどで、低木林ではキジバト・ヒヨドリ・クロツグミ・シジュウカラ・コジュケイも見られました。ササ類が繁茂しているためか、このような環境を好むウグイスやホオジロの生息密度は他の場所よりも大変高いようでした。なお、箱根稜線周辺に特徴的な種類としては、牧草地に生息するオオジシギとホオアカがあげられます。

### は虫類・両生類

は虫類はヤマカガシが確認されましたが、アオダイショウを見たことがあるという話も聞くことが出来ました。ヤマカガシはカエルを好んで食べることから、カエルの少ないこの地域では生息数はあまり多くないと思われます。なお、これらの種以外にも生息している種があると考えられます。

両生類では、シュレーゲルアオガエルが別荘地内の小さな池で鳴いているのが確認されました。周辺には低木林が多く生息環境は広いのですが、繁殖に必要な水辺が少ないため、生息数は少ないと思われます。その他にも生息する種があると思われませんが、生息数は非常に少ないと考えられます。また、別荘地のすぐ下流ではハコネサンショウウオが確認されていますが、ひょっとすると成体が移動してきて生息しているかもしれません。

### 昆虫類

神奈川県と接していることもあり、神奈川県西部に分布するニセミヤマクビボソジョウカイ・ハコネクビボソジョウカイ・タカオクビボソジョウカイなどの小型のジョウカイボン(コウチュウ目)が確認されました。また、春に発生する大型のガ類のイボタガも確認されました。夏にはブナ帯に生息するヒメヤブキリモドキという小型のキリギリスの仲間が確認されました。このほかハコネマルツノゼミ(カメムシ目)、ハコネモリヒラタゴミムシ(コウチュウ目)など「箱根」の名のつく昆虫類や、伊豆特産種のイノウエスジコガネも確認されました。

### ノウサギ(糞)



ノウサギの糞は押しつぶした球状をしていて、中には餌として食べた植物の破片がぎっしり詰まっています。雨に打たれても糞が崩れにくく、昆虫類に食べられる速度も遅いので見つけやすいです。

【撮影：2002/2/26 箱根稜線】

### キジ(雌)



オスは80cm程度の大きさで、鮮やかな体色と長い尾が特徴ですが、メスは60cm程度の大きさで色も地味です。一年を通じて草地、畑や周辺の林に生息します。繁殖期のオスは「ケン、ケン」と鳴きながら羽を打ち鳴らす縄張り宣言をします。

【撮影：2002/3/7 芦ノ湖高原別荘地】

### オオジシギ



ハト程の大きさのシギの仲間です。夏鳥として日本に渡来し、草原や湿地などで繁殖します。草の中にじっとしていると目立たないですが、ディスプレイ飛翔時には「ズビー」という声や「ザザザー」と聞こえる羽音をたてます。

【撮影：2002/6/17 箱根稜線】

### ヤマカガシ



体長60~120cmで、褐色地に黒と赤の紋が目立つヘビです。若いヘビでは頭の後ろの黄色い帯が目立ちます。毒を持っているので注意が必要です。オタマジャクシを食べるために水に潜ることもあります。

【撮影：2002/7/24 芦ノ湖高原別荘地】